

百済金銅大香炉が発見されるまで

太宰府市国際交流員 金辛沄

百済を代表する金銅大香炉。その造形が非常に優れ、整った美しさであることから百済文化の精髓と呼ばれ、百済を象徴する遺物です。

1993年12月12日、陵山里古墳群を訪れる観光客のために駐車場を整備しようと敷地を掘っていた際に発見されました。周囲には瓦と土器の欠片、そして繊維の一部も一緒に発掘され、大香炉を包んだ布が時を経て削られたものと推定されています。以降の調査で、香炉が発見された場所に百済時代の王室の寺院があったことも明らかになりました。

王室で祭祀用に使われる物が布にきれいに包まれたまま地面に埋められた理由は、660年に泗沘城が陥落して略奪と放火が行われた際、ある百済人が急いで隠したためという見方があります。この香炉は、そのまま千年以上もの間、地中に埋まり酸素が遮断されたおかげで、原型をそのまま維持することができました。

この香炉が発掘された後、どの博物館が所蔵するかで意見が分かれました。最初は国立中央博物館が所蔵していましたが、出土地から最も近い博物館で所蔵するのが正しいという結論により、現在は国立扶余博物館でその美しい姿を見ることができます。



発見された百済金銅大香炉

人権標語

一人称

なんでもいいでしょ

決めないで

水城西小6年 小山 萌々さん
(応募時)もとやま はるこ
本山 晴子
(青葉台区) 新池坊

花材 すじ柳、菊

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

ダイアナのブーケに使いしギンバイカ
どちらの花も命短し

五条 大穂 聡子

身に重き責下ろしつあるがまま
最晩年の日々をたどらむ

五条 大穂 晶代

弱音吐く自分の傍にもうひとりの
励ます自分が寄り添つてゐる

朱雀 黒木 邦枝

体温をこえる暑さに立秋の
言葉は今や忘れられるのか

通古賀 詫摩 典子

雑草の群れたつ中に蝸牛
そろそろ這いて我が世を謳歌

東ヶ丘 西木ミヤ子

太宰府俳句会

持永 真理子 選

野分にも軋める独り住ひかな

星ヶ丘 柴田慧美子

野分前準備に深みゆく絆

馬場 有岡 和砂

庭下駄の行方不明も野分らし

東観世 中島 祝乃

ベテランも振るはぬ試合秋の蟬

小都市 宮原 勝彦

包丁の抜き差しならぬ栗南瓜

水城 福永 惠美

飛梅句会

介弘 紀子 選

嬰兒の寝息に遠く法師蟬

大野城市 田代りえ子

この星をなぶりてやまぬ残暑かな

朝倉市 鶴田 ゆき

頼まれしこと断はれず秋暑し

長浦台 徳賀美智子

透ける翅震はせ鳴くや法師蟬

馬場 野上コト子

玉音の記憶の底の残暑かな

観世音寺 野田 杉子

宝満句会

菅井 久美子 選

離れへと続く飛石鳳仙花

福岡市 工藤 友子

縄跳びの大波はじく鳳仙花

高雄台 川路 泰子

母の指染めて笑顔の鳳仙花

大佐野台 金丸 恵子

鶏鳴の遠音の里や鳳仙花

星ヶ丘 江里口幸生

吹き抜くる風に弾けし鳳仙花

高雄台 荒島由美子

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選

西日さすあの娘の指先ターコイズ

筑紫野市 寺田 恵子

風入れて父母の遺影の夏座敷

福岡市 北川朴洋子

色褪せる玩具を晒し西日落つ

福岡市 宮津英里子

月光と風入るる喪の夏座敷

青葉台 彦坂 正幸

荒庭の叢よりゆるり夏の蝶

高雄 福岡久美子

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選

軽いステップ踏んだあの日も遠い絵に

星ヶ丘 武末 次生

子育ての答合わせは『ま』とする

大野城市 高果富美子

カード払い便利さに負けたチャージ

都府楼 杉 良子

予知能力あれば今頃大富豪

国分 岸本しずえ

キッシュレスよけに羽がはえそつだ

筑紫野市 坂本やよ子